

# 発見の毎日 ～研究と子育てと～

文学部 准教授 岸本 恵実

私は日本語史、なかでも戦国時代から江戸時代にかけて、キリシタンが日本宣教のために作成した辞書や文法書などをもとに、当時の日本語を明らかにする研究をしています。所属する日本・中国文学科では文献を丁寧に読み解くことが研究の基本となっており、私の場合は中世から近世の日本語、時にはポルトガル語やラテン語で書かれた文献が対象です。そのような読み解きの中から、あるいは学生たちとの議論の中から、さらに面白い発見があったり新たな疑問が湧いてきたりして、なかなか区切りを付けられません。

さらに私個人として見ると、家事と育児、その他の私事も合わせて段取りを考え、決めるのが日常の中心になっているといっても言い過ぎではありません。初めは保育園の送迎時刻や子どもの病気などでそうならざるを得なかったのですが、徐々に慣れ、今は大学での業務を主にしてOFFの時間を作っているというより、公私の違いがある複数の仕事を、順序と時間配分を意識しながら進めているという実感があります。

このように子どもがいてくれることで、頭の切り替えがしやすくなりました。さらにありがたいと思うのは、子どもが社会と私の大

きな接点になってくれていることです。大学では日頃、学生のほかごく限られた教職員の方々とはしか接する機会がありませんが、毎日自分の子ども、保育園や小学校の先生、母親同士や近所の方々、子どもの友達などと話したり、子ども向きのものを見たり聞いたりするようになって、視野がずいぶん広がったと感じます。私の専門に近いところでは、児童書の日本語、「下足室」「プール納め」などの学校用語や、異なる地域・世代の日本語を見聞きすることが増え、気になって自分で調べてみることもしばしばあります。これからは日々、研究上だけでなく子育ての中でもいろいろ発見ができそうなのが楽しみです。

自転車操業と反省の毎日ではありますが、女性も働きやすい環境が社会的に整えられつつあり、周囲に支えて下さる多くの方々がいたからこそ、私は研究を続けていくことができました。さらに昨年度からこの大学独自の支援を受けられるようになりましたが、これまで受けてきた恩恵に感謝するだけでなく、どのような形で還元し若い研究者の人たちにつないでいくかが、これからの私の課題の一つと考えています。

### きしもと・えみ

2003年3月 京都大学博士(文学) / 2000年～2006年 大阪外国語大学 日本語日本文化教育センター(旧留学生日本語教育センター)助手、講師、准教授 / 2007年～2010年 国際基督教大学 教養学部 准教授 / 2010年から現職。



# Newsletter

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

Vol. 02  
2014.07

## 男女共同参画の推進にあたって

本学では、2013年10月に男女共同参画推進委員会を設置し、新たに設置した男女共同参画推進室を拠点に、男性、女性の分け隔てなく能力を発揮できる制度や環境の整備に努めています。

2014年7月には、更なる推進に向け、男女共同参画推進基本理念と基本方針を定めました。



## 京都府立大学男女共同参画推進基本理念

1999年に施行された男女共同参画社会基本法は、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が、21世紀のわが国の最重要課題と位置づけています。

本学は、「京都府立大学の理念」に明記しているように、京都府における知の拠点として、広く人文・社会・自然の諸分野にわたる真理を探究し、教育することによって、地域社会と国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成することを使命とし、京都の地に根ざした魅力的で個性ある大学として発展することをめざしています。また学問の自由な発展をめざすため、構成員ひとりひとりの人権を尊重し、自律的・自発的な探究を保障することを謳っています。

本学は、教育研究の場でさらなる成果をあげ、社会の発展に貢献するために、学生、教職員が、お互いの多様性を認め合い、協働し、学修、教育・研究、就業、家庭生活の場で、権利と利益の機会が均等で調和している環境の実現を推進します。

ここに、男女共同参画社会の実現をめざすことを宣言し、取組みの方向性を示すことを目的として、本学における男女共同参画推進の基本方針を示します。

### 基本方針

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境および就業体制の確立
2. 教育・研究および就業と家庭生活との両立を図るための支援
3. 男女共同参画に関する啓発活動の推進
4. 大学運営における意思決定への女性参画の推進
5. 男女共同参画を推進する地域社会や自治体との協調・連携の推進

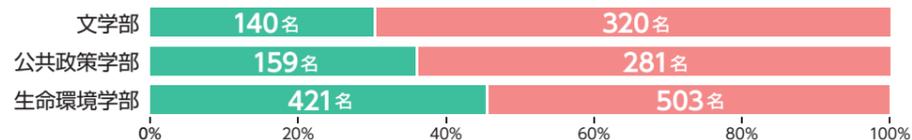
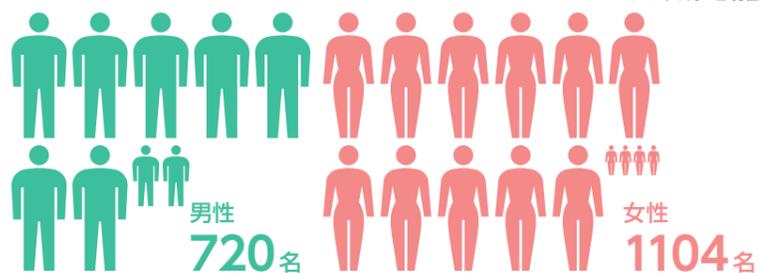
文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(一般型)

## 数字で見る! / 府大の男女共同参画

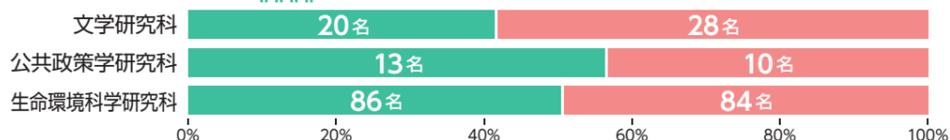
第1回 学生・大学院生の男女比率

2014年5月1日現在

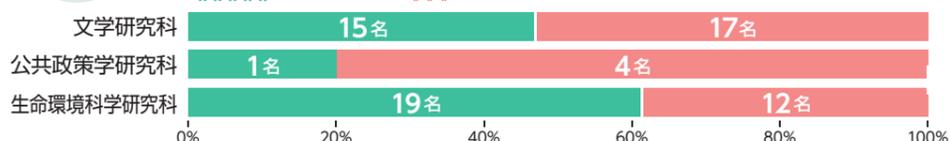
学部生 1824名



博士前期課程 241名



博士後期課程 68名



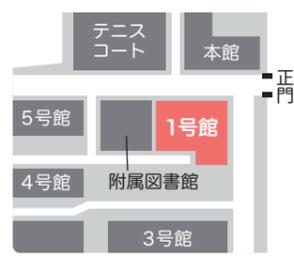
## 編集後記

推進室が開設され8ヶ月が経ちました。4月から若手スタッフが増え、3名の常勤職員体制となりました。今年度の女性研究者支援事業は、相談窓口の開設やメンター制度の創設、スキルアップセミナーなど、大学院生・学生を対象とした事業を中心にいきます。研究の合間に気分転換したくなったとき、推進室を利用して下さい。必ずヒントが見つかるはずですよ。

### 編集・発行

## 京都府立大学 男女共同参画推進室

〒606-8522  
京都市左京区下鴨半木町1-5 (1号館3階)  
TEL: 075-703-5143  
E-mail: danjo@kpu.ac.jp  
HP: www.kpu-sankaku.jp



# 男女共同参画推進室 2年目へ

平成26年4月より、小沢室長、野口副室長が就任しました。  
また、3名の男女共同参画推進委員会委員を新たに迎えました。

## 2年目を迎えるにあたって

京都府立大学副学長・男女共同参画推進室長  
公共政策学部教授

小沢 修司



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたのを機に本学に男女共同参画推進室が生まれてから2年目を迎えます。

いま大学院のゼミでA・センの本を読んでいます。女性へのエンパワーメントの付与が家族における決定や地域社会の規範を創造するうえで決定的な役割を果たす、とセンは言います。ここには、センの人間発達論のポイントが如実に表れています。どのような人生の選択も主体的に行えるような力を身につけることが自由の拡大であり人間発達であるというのがセンの主張ですが、私見では、結果として示される女性研究者比率の上昇も大事だが、女性研究者が力(エンパワーメント)を付けていくことが本旨であり、それによって大学が創造的に変わっていくものだと思います。よろしくご指導ください。

## 意識を変えるためにすべきこと

京都府立大学男女共同参画推進室副室長  
文学部教授

野口 祐子



京都府立大学では、2013年度に男女共同参画推進室を設置してから短期間のうちに、男女共同参画推進委員会と推進室コーディネーターをはじめとするスタッフの活躍によって、様々な支援・研修会・セミナーなど主力事業を実施してきました。2014年度は若手研究者支援に力点を置いた事業を展開します。

女性が社会で活躍するためには、社会全体の制度も意識もまだまだ変えていかねばなりません。「女性はこういう生き方をすべきだ」とか「女性の役割はこれ」といった先入観に捉われた発言がいまだに目につく日本の社会。それを変えていくために、大学がなすべきことはたくさんあります。推進室から意識啓発の輪が広がっていくのを期待しています。



## 平成26年度男女共同参画推進委員会委員一覧

平成25年度委員の任期満了に伴い、今年度の委員が就任しました。

小沢 修司	副学長・男女共同参画推進委員会委員長・男女共同参画推進室長 / 公共政策学部教授
野口 祐子	男女共同参画推進委員会副委員長・男女共同参画推進室副室長 / 文学部教授
渡邊 伸	文学部学部長(※新任)
吉岡 真佐樹	公共政策学部学部長
朝田 佳尚	公共政策学部講師(※新任)
渡部 邦彦	生命環境科学研究科研究科長(※新任)
高野 和文	生命環境科学研究科教授
リントウルオト 正美	生命環境科学研究科准教授
稲村 智史	事務局長

## 短信 参画推進室 男女共同

活動報告



### 2013年度 研究支援員制度報告会開催

4月23日～4月25日のランチタイムに、平成25年度に研究支援員制度を利用した教員10名による報告会を開催しました。制度を利用した教員からは、継続を必要とする動物実験が可能になり助かった、残業が減った、常に時間に追われていたが精神的に安定した等、研究・生活・精神面での効果があったとの報告がありました。



※研究支援員制度は、妊娠・育児・介護といったライフイベントにより、研究時間が十分に確保できない研究者(配偶者が研究者である男性研究者も含む)を支援するものです。

### 2014年度前期 研究支援員の配置が始まっています

今年度前期は、9名の研究者(常勤教員8名、学術研究員1名)に、12名の研究支援員を配置しています。今年度から、制度利用者を常勤教員から特任教員・学術研究員まで拡大しました。後期(10月から)の利用者募集は、8月に開始する予定です。

### 第1回メンター勉強会「大学におけるメンタリングー神戸大学の経験から学ぶー」開催

本学でのメンター制度の導入に向けて、朴木佳緒留氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授、学長補佐(男女共同参画担当))をお招きして勉強会を開催しました。参加者数は教職員10名でした。

## 今後の予定

活動予定

### オープンキャンパス「女性のキャリアデザイン～先輩とのトークセッション」開催

日時	7月19日(土) 14:40～15:30	テーマ	「文系女子のキャリアデザイン」
スピーカー	奥谷 三穂さん 京都府文化環境部環境・エネルギー局理事 / 元京都府立大学公共政策学部准教授(2010年～2011年)		
日時	7月20日(日) 10:00～10:50、14:40～15:30	テーマ	「研究者をめざす・大学院で学ぶ」
スピーカー	生命環境科学研究科で学ぶ大学院生 2名 稲葉 理美さん 博士後期課程2年 応用生命科学専攻 生命物理化学研究室 佐生 愛さん 博士後期課程2年 応用生命科学専攻 遺伝子工学研究室		

### 学童保育「夏休みキッズLabo」開催

日時 8月4日(月)～8月6日(水) 対象者 教職員の子ども(小学校1年生～6年生) 場所 府立大学構内

### 第2回メンター勉強会「メンタリングの基礎～対人援助の技法を学ぶワークショップ～」

日時 8月7日(木) 14:30～16:00 講師 中村佐織 公共政策学部教授 対象者 本学の教職員

### 大学院生のための英語論文スキルアップセミナー

日時 9月8日(月)、9月22日(月)、9月29日(月)午後を予定  
講師 野口ジュディー・津多江氏 武庫川女子大学 薬学部教授(言語教育)

## 京都府立医科大学 病児保育室「こがも」利用が始まっています

子育て中の教員からニーズが多かった「病児・病後児保育」ですが、7月より、京都府立医科大学内にある病児保育室「こがも」の利用ができるようになりました。利用対象者は保育支援プログラムに事前登録し、生後6ヶ月から小学校6年生までの子どもを養育する常勤教員6名(女性4名、男性2名)です。利用料1500円/1時間のうち、本人負担は500円/1時間で、残りは補助金から助成を行います。

## 第3回あおいサロン「デザインする思考」を開催しました

あおいサロンは、企業や研究開発の最前線で働く卒業生をゲストスピーカーとしてお招きし、これからの生き方・働き方をともに考える交流の場です。今回は、大学での教育研究だけでなく、建築家としても活躍される本学OGの高取愛子さんに、「デザインする思考」について、お話をいただきました。参加者からは、次のような感想が寄せられました。



- 女性研究者を目指す者として、妊娠・出産をしたときにどのように研究活動と家庭を両立するのかというお話が興味深かったです。
- キャリアパスの話は聞けそうで聞けないお話なので、比較軸としても参考になりました。
- カッコイイ人は、カッコよくなろうとしていないのではありませんが、実感できて、すごく気が楽になりました。自分らしく、周りを気にせず生活する、その実行力がカッコよさの源だと思いました。

日時	7月3日(木) 16:10～17:40
テーマ	「デザインする思考」
参加者数	25名(学生11名、大学院生4名、教職員10名)
スピーカー	高取愛子さん 京都大学大学院工学研究科工学研究科附属グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター講師 / プリヤデザイン一級建築士事務所 アドバイザー / 1998年京都府立大学生生活科学部住居学卒業